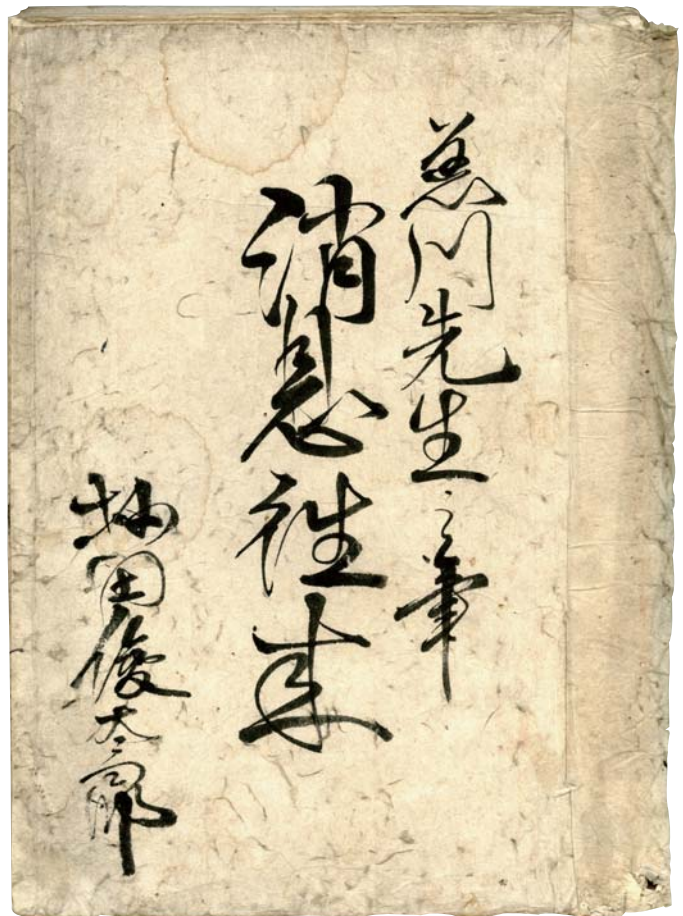
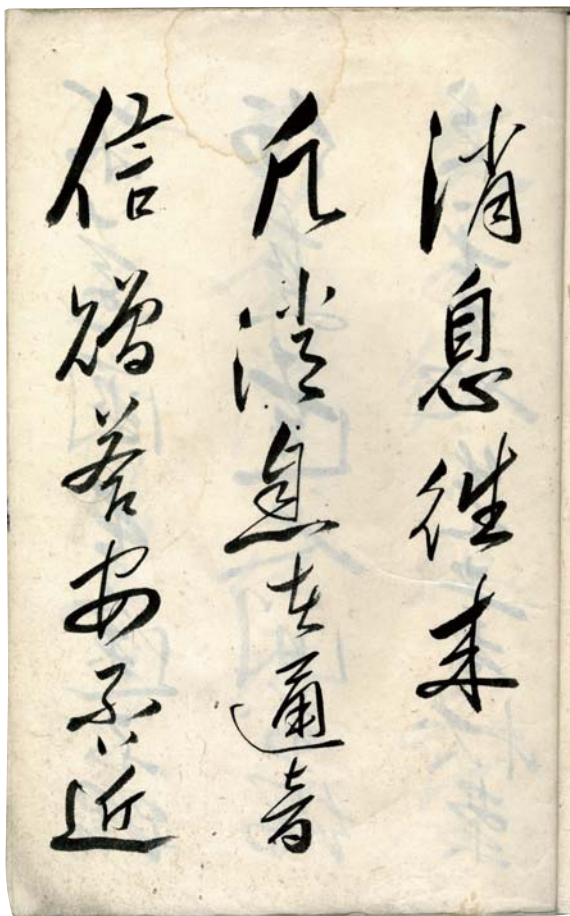


文書館だより

Fukui Prefectural Archives



▲福井藩士荒川助尾（汶水）の手習手本 年未詳（坪田仁兵衛家文書C0005-00725 当館寄託）

第21号目次

特集1「新出！福井城下絵図」	2
特集2「コンパクト・スピーディ・タイムリー！ミニ展示」	4
歴史的公文書紹介「国鉄越美線への思い」	6
寄贈資料紹介	7
お知らせ	8

第21号

2013.11

福井県文書館

特集1

新出！福井城下絵図



▲①「慶長御城下絵図」森永与右衛門家文書（当館蔵）A0029-00050 ※北を上としています

昨年度、福井市内の旧家から福井城下の絵図が2点見つかりました。これらは、各分野の専門家が福井城址周辺の歴史を活かした県都のまちづくりを検討する「福井城史料調査委員会」で報告されたものです。その後の調査の結果、これらの絵図の興味深い見どころや、絵図を所蔵していた浅井家について、さまざまな側面が明らかとなりました。当館では、この絵図についての企画展を開催し（平成25年6月28日～8月21日）、関連して県史講座を行いました（8月3日）。ここではそれらをかいつまんでご紹介します。

絵図の見どころ – ふたつの絵図の違い –

今回発見された、「慶長御城下絵図」（以後①と略）と「天保福井御城下絵図」（以後②と略）には、慶長期と天保期の城下の屋敷地などが描かれています。そのうち①は、原本から写されたものですが、そのまま謄写したのではなく、後年のほかの城下絵図と比較しやすいように、ベースマップは測量技術が発達してからの正確な図を用いて復原しています。一方②は、正確な図ではなく、デフォルメした実用的なものとなっています。大きさも①が124×123cmと大判であるのに対し、②は70×90cmと小ぶりのハンディサイズです。

①の絵図からは福井の城下創成期のようすをうかがい知ることができ、各屋敷地の変遷を知るうえで重要な内容を持っていることがわかります。いっぽう②は下級家臣の所在についての記述が充実していて、多くの修正箇所があり、実際に持ち歩いて活用したものと考えられます。

絵図を持っていた人物とは

これらの絵図は、浅井八百里（政昭）（1813～1849）とその子息の権十郎（政由）のものであったことが明らかとなりました。八百里は、窮乏していた藩財政を立て直した藩士として有名な中根雪江の従兄です。側頭取から目付となり、松平春嶽の教育係だったことで知られています。

これまで八百里は、学究肌の人物というイメージが強かったのですが、いっぽうで、来たるべき時代の人材登用を見越した下級家臣の人事管理文書「新番格以下」の作成にも深く関与していたことがわかりました（『福井藩士履歴1 あ～え』福井県文書館資料叢書9解説）。

そして、八百里が目付として取り組んだ人事管理のしごとには、各藩士の転宅の状況を確認する作業も含まれていました。①②の絵図は、このような空間的把握のために用いられ、浅井家にのこされたものと考えられます。

有能な教育者であり官僚でもあった八百里は、37歳という若さでこの世を去ります。もう少し長生きしていたら、橋本左内や横井小楠と同様に、その後の激動の福井藩を支える重要人物の一人となっていたに違いありません。



▲②「天保福井御城下絵図」森永与右衛門家文書（当館蔵）
A0029-00051 ※北を上としています

特集2

コンパクト・スピーディ・タイムリー！ ミニ展示

当館では今年度、可動式展示ケースを使ったミニ展示に力を入れています。ミニ展示は、4～5点の資料を展示するコンパクトな形式で、講座や他施設の展示と連携するテーマを速やかに準備して、タイムリーな資料を紹介しています。ここまでの取組みを紹介します。

講座・講演会と連携した展示

当館主催の講座や講演会の時期にあわせて、その内容に関連する資料の展示を行いました。講座の内容を深めるとともに、初めて来館した受講者に対しては、当館の収蔵資料を紹介するきっかけにもなりました。

「古文書入門講座で読む資料

－かなを手がかりに－（6月）

古文書入門講座のテキストとして取り上げた資料を展示しました。講座終了後には、受講者の多くが閲覧室に立寄りました。

「村送り一札之事（娘嫁入二付）」 1847年（弘化4）▶
山田三郎兵衛家文書（当館蔵）I0011-00330-001



「江戸時代の旅のすがた」（7月）

講演会「江戸時代の越前・若狭を旅した人々」に関連した資料を展示しました。当館収蔵の旅日記や記録などから、江戸時代の旅のようすを紹介しました。



▲「参宮のみやげ」 年未詳
勝見宗左衛門家文書（当館蔵）
B0037-00297

「郷土新聞優秀作品展示」（8月）

中学生の夏休みの郷土新聞づくり支援の一環として、郷土新聞づくりポイント講座を実施し、関連して福井県中学生郷土新聞コンクールの昨年度の優秀作品を展示しました。

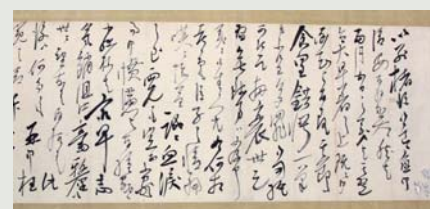
展示のようす▶



「左内の手紙」（10月）

古文書初級講座でテキストとして使用した橋本左内書状（福井県立歴史博物館蔵）を展示しました。

「橋本左内書状」（部分） 福井県立歴史博物館蔵▶



他施設と連携した展示

他施設での展示・特設コーナーと連携した展示を実施しました。連携することで、展示テーマの内容が相互に深まるとともに、これまで、常設の月替展示規模では資料がそろわず、取り上げることでできなかったテーマでの資料の紹介が可能になりました。

「百人一首とかるたの世界へ」（4・5月）

福井県立こども歴史文化館で開催された特集展示「ちはやふる かるた王国ふくい展」に関連し、当館収蔵の百人一首やかるたを展示しました。

『群玉百人一首宝箱 全』 1713年（正徳3）▶
桜井市兵衛家文書（当館蔵）N0055-00922



「従軍兵士の記録」（8月）

併設する福井県立図書館の一般特集コーナー「戦争の記録」に関連して、当館収蔵の日中戦争当時の従軍兵士の記録を紹介しました。

「(山砲兵分隊長滝本孝之陣中日記)」 1937年（昭和12）～38年▶
滝本嘉博家文書（当館蔵）J0127-00001～00003



最近のできごとに関連した展示

「東京オリンピック開催決定！－昭和39年の聖火リレー－」（9・10月）

2020年（平成32）の東京オリンピック開催決定にちなみ、当館所蔵の県広報写真から、1964年（昭和39）の聖火リレーのようすを紹介しました。決定直後のタイムリーな展示ということで来館者の関心も高く、当時、走者としてリレーに参加した方のなつかしい思い出話なども寄せられました。



▲展示のようす



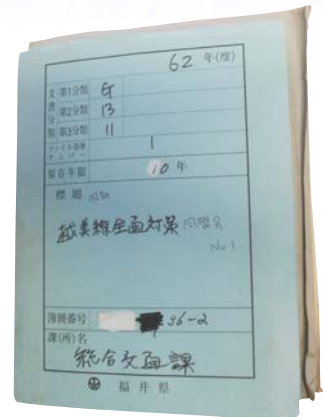
▲「聖火リレー 小浜市」
県広報写真62138（当館蔵）



▲「聖火リレー 福井市浅水～花堂」
県広報写真62151（当館蔵）

◆◆◆歴史的公文書紹介◆◆◆ 国鉄越美線への思い

国鉄越美線は、1922年（大正11）の改正鉄道敷設法で福井県と岐阜県とを結ぶ予定線路として位置付けられました。福井県側は35年（昭和10）に着工し、戦争による中断があったものの順次開業し72年に九頭竜湖駅まで開通し、現在に至っています（越美北線）。一方、岐阜県側の開通は早く、34年までに白鳥町の北濃駅まで開通しました（越美南線）。越美線の未開通区間は、九頭竜湖駅と岐阜県側の北濃駅との間24kmを残すだけでしたが、工事は中止され、84年には越美南線が廃止対象路線になりました。



▲「国鉄越美線全通対策同盟会No.1」
16746 総合交通課（1987年度）

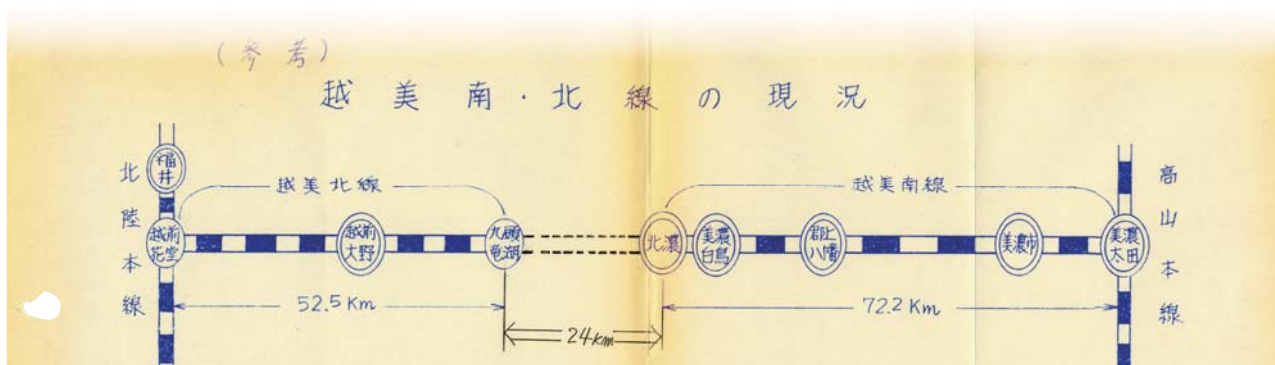
この資料には、1985年（昭和60）6月から87年4月にかけての「国鉄越美線全通対策同盟会」の理事会や総会の関係資料が綴られています。

国鉄越美線全通対策同盟会は、「国鉄越美南・北線に関する対策及び早期貫通の促進」を目的として、63年に福井・岐阜両県の知事が会長・副会長となり結成されました。85年の第23回定期総会で福井県知事の中川平太夫は、「なんとしてでも越美南線は鉄道として残していただかなければ、永年の悲願達成はありえない」と挨拶し、越美南線の存続を訴えています。86年1月には、岐阜県側から、地元の要望や利用実態を理由とした、越美南線の存続への取組みが報告されており、結果として、2月に特定地方交通線対策協議会において鉄道による存続が決定し、その年の12月、第三セクターの長良川鉄道に移管されました。

一方、1986年（昭和61）9月から11月にかけて、九頭竜湖駅と北濃駅を結ぶ新線建設に向けた旅客需要予測・経営収支試算等の「越美線（九頭竜湖～北濃間）新線経営基本調査」が行われました。報告書では、東海北陸自動車道の建設や高速バスなどのモータリゼーションの急激な発達等、越美線を取りまく交通環境の変化といった問題が指摘されています。

現在、越美北線はJR西日本の路線、越美南線は第三セクター長良川鉄道として存続していますが、全線開通には至っていません。また、越美線に関する公文書*は他にも当館に収蔵されており、福井と岐阜の両県の越美線への思いが記録として残されています。

*「国鉄越美線全通対策同盟会」（1980～84年度 5352）、「国鉄越美線全通対策同盟会No.2」（1987年度 16747）などがあります。



▲国鉄越美線全通対策同盟会幹事会資料より 1985年

◆◆◆寄贈資料紹介◆◆◆

複製本ができたものから公開しています。

◆内田利信家文書(C0127)

寄贈資料は「鳴鹿堰所諸書物帳（鳴鹿堰所縁起并諸明細写）」と「(坂井郡村尽、手習教科書)」の2点です。

「(坂井郡村尽、手習教科書)」▶
C0127-00002



▲「越前国西方内志津庄内本折村御検地帳」
D0038-00014

◆齋藤実家文書(D0038)

本折村は丹生山地東端、志津川上流の谷間に位置します。齋藤家の先祖は齋藤実盛の弟実員で、兄実盛が篠原の戦いで戦死した後本折に帰り、百姓となって土着したといわれています（『清水町史』）。

寄贈資料は本折村検地帳、袴椽上の願書、地租改正関係資料、系図など19点です。

◆野村幸男文書(X0150)

野村幸男氏は京都府東舞鶴市出身で、1936年（昭和11）に福井中学校に教諭として赴任。42年に退職し、東京文理科大学地学科に入学、卒業後は京都府内で教員となりました。

野村氏は、東京文理科大学在学中の1943年（昭和18）12月、大野郡を対象に地誌調査を実施するため、調査回答依頼を大野郡の各村役場・国民学校に送付しました。寄贈資料は、その際に返送された回答用紙など29点です。



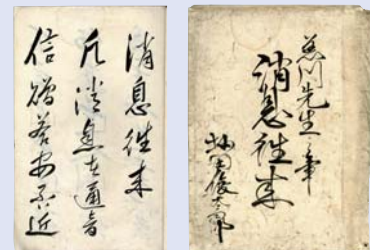
▲「調査用紙(地誌研究調査回答、封筒入)」
X0150-00001

表紙写真 福井藩士荒川助尾（汶水）の手習手本 年未詳 坪田仁兵衛家文書C0005-00725(当館寄託)

1872年（明治5）、学制が發布されると坂井郡大牧村（現坂井市）では民屋で小学校教育を開始し、福井藩の儒学者の荒川助尾（汶水）を教師として招きました。

荒川は、藩校明道館やその外塾の教師を勤めたほか、藩主の身近にあって「書物方」「世譜方」を勤めた人物で、春嶽の漢詩・漢文も添削しました。風流と酒を愛し、誰でもわけ隔てなく接する人がらから、多くの人々に慕われていたといわれています。

※荒川助尾の詳しい履歴は『福井藩士履歴1 あ～え』福井県文書館資料叢書9に掲載されています。

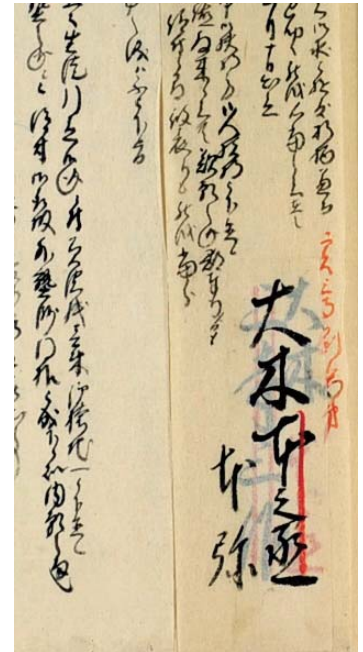


今年度の『福井藩士履歴』福井県文書館資料叢書10 は、「お〜く」まで刊行！

昨年度から新しいシリーズ「福井藩士履歴」が始まり、好評を博している当館の資料集。松平文庫の資料をもとに、幕末維新期の福井藩家臣団約3,000家の中で、中・上層（士分以上）900家の歴代当主の職務履歴を50音順に翻刻しています。現在、既刊の「あ〜え」に続く「お〜く」の準備を進めています（平成26年2月末発刊予定）。

この巻には、たとえば熊本の横井小楠を訪ね、福井藩への招請のきっかけをつくった三寺三作（大木本弥）、文久3年夏、三岡八郎（由利公正）らを連れて使者として肥後・薩摩に赴いた岡部豊後、神戸海軍操練所に学び、福井藩の蒸気船黒竜丸を運行する大館尚氏（源紀）、殖産興業策に深くかかわる加藤藤左衛門や岡嶋恒一、春嶽の側頭取を務めた桑山十蔵、大井弥十郎、香西敬左衛門など、多彩な人物が登場します。

既刊資料叢書と同様に希望者には文書館閲覧室あるいは送料実費負担にて配布します。



▲三寺三作の履歴（部分）「士族」
松平文庫 福井県立図書館保管

ご利用案内

■ 開館時間

午前9時から午後5時まで

■ 休館日

月曜日（休日は除く）

休日の翌日（土、日、休日は除く）

文書等点検期間（年間10日以内）

年末年始（12月28日～1月4日）

清掃整理日（12月以外の第4木曜日、休日の場合は翌日）

■ フレンドリーバス（無料）をご利用ください。



編集後記

たより第21号をお届けします。今号では今年度の企画展でも紹介した新出の福井城下絵図と、今年度力を入れているミニ展示を特集しました。今後とも文書館に親しみをもって利用していただくために、さまざまな取組みを行っていきます。

文書館だより Fukui Prefectural Archives 第21号

2013年（平成25）11月1日発行

編集・発行／福井県文書館

〒918-8113 福井市下馬町51-11 電話 0776-33-8890 FAX 0776-33-8891

ホームページアドレス <http://www.archives.pref.fukui.jp>

電子メールアドレス bunshokan@pref.fukui.lg.jp



健康長寿の福井